



特別  
リ 5  
12432  
13



持  
15  
12432  
13

大周記卷第十三目錄

- 一 高麗陣起之事
- 一 高麗入評說之事
- 一 朝鮮國進發之人教
- 一 同大船被作付事
- 一 同軍役之事
- 一 沂控之事
- 一 各護屋ハク館カン之事
- 一 朝鮮陣人救滅シ之事
- 一 各書船之事
- 一 忠州落城
- 一 宰相秀蒙
- 一 小西を助成シ—シ海海之事
- 一 上帝之事
- 一 小西都入之事
- 一 太子之事
- 一 皇計以シ至シ於シ表入勢事

一 小西面ありん道ゆく振威事  
一 三奉行引還都表事

朝鮮八川

慶尚道  
黄海道

全羅道  
江原道

忠清道  
咸鏡道

京道  
平安道

西甘浦

釜山浦

东梁

熊川

安骨浦

唐鴻

咸昌

忠川



大内記卷之三

高麗陣起之事

甫菴道喜重選

○秀吉公既征汗馬之勞功亦登龍之佳運守王  
道奉成行幸上下雍和和く東南より雲治  
り西北より風勢より北海の外より也。其より  
干幕下。此より中細云秀吉公。何。天氣。閑白  
職等を。攘り至。其ハ新羅百濟。其ハ麗子。其ハ  
と。後海は國を。通治。と。その。と。入。店。切之  
者。其に。爵。福。を。厚く。一。其。國。之。佳。風。を。見。し。  
同。も。一。其。朝。之。政。勢。を。改。め。ん。と。思。ふ。た。り。也。

其予一人之志也。不可有也。定方如く。一人

之宿老。シユクラウ 家康。輝元。秀家。三人之小宿老。生約飛樂頭 中村式部大補

堀尾若力。五人之奉行。淺野彈正少弼 徳善院玄白 増田 右忠 石田治部大補 長本大補

大補。等子。お徳。お定。お宗。お重。お平。

及東征のころ。中し。控威之勤。りて。外。神。お

就天子。在り。如く。四。切。之。老。臣。諸侯。之。面。も。今

ハ。干。戈。を。箱。の。に。一。ち。や。穀。に。一。也。年。之。労。を

勉。え。んと。控。禦。一。と。よ。く。り。然。れ。ば。君。ハ。大。志。を

有。人。も。ま。は。お。お。の。お。く。る。世。の。老。か。り。を。も。て。居。る

の。事。も。一。ハ。思。ひ。之。の。一。也。お。あ。り。あ。り。よ。お。く

芳と云ふとい。思ひの外なり。さく。あまぬ人なり

として。い。一。一。其。も。も。又。属。せ。ぬ。氣。も。な。り。と。ハ

志。つ。た。り。の。懐。來。と。亦。一。と。く。く。人。お。事。に。也。と。云

つ。が。ん。と。ふ。も。も。

○高麗入評定之事

五人之宿老。三人之小宿老。五人之奉行。前云。十

八年三月九日。大坂に。程。候。一。お。城。セ。一。う。は。ん。不

時。之。御。茶。山。里。に。て。治。事。に。ク。り。か。く。て。後。仰。お。勤

ハ。共。勤。を。勤。し。て。平。治。事。も。各。數。年。之。勤。功。一。周

て。な。り。然。ハ。る。に。高。麗。と。も。お。勤。勞。平。約。一。過。活。一

之より入唐一救國を領一功長く芳を報一  
 又英國之政要と見も一因も一我々の政勢乃  
 中より亦く大平之功と云んと申すは如何に  
 換登と信給し。満坐皆ちなり。誰も左右に  
 可御也。辭もさうさう一不も。家康のさう  
 一不取河原にあり。一可成先事ゆり古  
 波節と一。秀吉云甚い所氣盛なり。東十方  
 天國の通治門の之祝義も。懸合勝給中。之後四  
 之大吏をに給と一。波節付旨ゆり何と取勝た  
 ぬくケリ。

○朝鮮國河川を殺之人数

肥前國名護屋在陣流

- 一 萬五千人
- 一 萬人
- 八千人
- 三千人
- 千五百人
- 千五百人
- 五千人
- 三千人

武蔵大納言

大和中納言

加賀守

京津中將

瀧城少將

前尾張守

越後守

會津少將

江若  
常六

二千人  
千五百人  
五百人  
二千一人  
八百人  
八百人  
百五十人  
千人  
千五百人  
六千人

吉隆侍從  
伊達侍從  
本羽侍從  
金山侍從  
松任侍從  
八幡山京務侍從  
安房侍從  
羽束河内侍從  
龍野侍從  
北庄侍從  
今手美作守

二千人  
千三百人  
五百人  
千人  
千人  
五百人  
二百二十人  
百五十人  
二百人  
百人

村上圓防守  
海口伯耆守  
本下宮内女捕  
小野下野守  
吉本紀伊守  
宇都宮三郎  
秋田左郎  
津輕右京助  
南部大膳大吏  
中及伊勢守

二百五十人  
七百人  
三百人  
五百人  
三百人  
二百人  
千人  
二百五十人  
千人

合七萬三千六百二十人

相次太郎  
吉田源五父子  
杉本河内守  
石川玄米苗  
日孫野藏了正  
小條義信守  
千石敬前守  
本下右衛門守  
伊藤忠右守

郷前備

六百五十人  
八百人  
百七十人  
三百人  
三百五十人  
四百人  
四百人  
五百人  
二百人

富田虎近右衛門  
金森林虎彈守  
蜂屋大膳大吏  
戸田武藏守  
奥山依海守  
池田敏中守  
小水信茂守  
津田多門守  
上田虎太郎

八百人

四百七十人

二百人

二百人

三百人

合五十七百三十人

御弓鉄炮

二百人

二百五十人

二百五十人

山崎大馬

輪桑兵庫

市橋下

赤松上

羽柴下

大崎雲八

野村肥後

木下右衛門

百七十五人

二百五十人

百三十人

百五十人

百人

二百五十人

合千七百五十人

御馬廻

四千三百人

三千五百人

赤越右衛門

伊波弥吉

宮本茂左衛門

榎本伊如

鈴木孫三

生熊源介

市橋下 六組

小姓 六組



五百人

八百人

千五百人

七百五十人

千二百人

八百五十人

千五百人

合一萬四千九百人

御撥備云

三百人

家町受

御伽云

事下半外紀

御使義云

御諾云

事除云

中間云

羽宋三吉侍從

五百人

百三十人

二百五十人

二百人

百七十人

百三十人

百人

百人

二百人

五十人

長兼大藏大輔

古田織部正

山崎右京丞

蔭田掾統

中江式部大輔

生約修理亮

月主受取

海江大炊助

河尻肥前守

池田孫右衛門尉

百二十人  
 百五十人  
 百人  
 二百人  
 百六十人  
 四百人  
 五百人  
 二百人  
 二百七十人  
 百人

大垣与一郎  
 本下右京助  
 矢了与後守  
 与子 萬介 後号去 番頭  
 与澤 志摩守  
 寺西 瓶後守  
 月次 郎介  
 榎原 右馬助  
 行中 丹後守  
 与吉川 右兵衛尉  
 松尾 右京進

七十人  
 二百五十人  
 百五十人  
 二百人  
 百人  
 二百人

川勝 右兵衛尉  
 氏家 志摩守  
 月内 膳正  
 寺西 勝兵衛尉  
 服部 去伏守  
 间嶋 麦太郎

合立千三百人

朝鮮國先掛市勢

七千人  
 五千人

少西 橋津守  
 對馬 侍從

三千人  
二千八百人  
一千九百人  
七百八十八人

合一萬八千七百八十八人

八百人  
一萬二千八百人  
八百人

合一萬九千八百人

六千人

相浦刑部左衛門  
五馬修理左衛門  
大村新八郎  
立河原守  
加茂主計次  
福清加加守  
相良宮内少輔  
黑田甲斐守

六千人

合一萬二千人

一萬人  
二千人  
一千九百人  
一千九百人

合一萬四千九百人

五千九百人  
四千九百人  
七千二百人

羽柴豊後守  
羽柴薩摩守  
毛利吉成守  
高橋九郎  
秋月三郎  
伊藤兵衛守  
為津又七郎  
福清左衛門  
戸田兵衛守  
蜂次加阿波守

三千人  
五千五百人

羽軍去依侍位  
生約雅樂取

合二萬四千七百人

三萬人  
一萬人  
五千五百人  
二千五百人  
八百人  
九百人

羽軍安藏云宰相  
同小早川侍位  
同久為來侍位  
同柳川侍位  
高橋之膳正  
瓶原上野介

合四萬五千七百人

朝鮮國都表お勢之記

一萬人  
三千人  
二千五百人  
千二百人  
二千人  
千人

合一萬七千二百人

彼前宰相  
増田右忠門尉  
石田治戸少輔  
大谷刑戸少輔  
前野但馬守  
加茂遠江守  
淺野大京大史  
宮戸兵部少輔

千五百人  
八百五十人  
四百人  
八百人  
八百人  
五百人  
三百人  
千四百人  
八百人  
四百人

南條左馬守  
本下留中守  
垣屋新五郎  
赤村左兵衛  
石丸色  
別下左衛門  
中村右衛門  
郡上侍  
服了宗女正  
一柳右色侍

三百人  
四百五十人  
三百五十人

合一萬五千五百人

八千人  
三千五百人  
五千人  
三千五百人  
千人  
七百人

竹中源平  
谷村源守  
石川肥後守  
波阜少將  
羽柴丹後守後号細川越中守  
同東郷信直元長谷川友成也  
本村吉隆介  
小野本隆左衛門  
板村兵部右補

五百人  
二百人  
二百人  
二百人  
三百人  
二百人  
百二十人  
二百人  
三百人  
二百五十人

豊中下野寺  
加次屋内膳正  
片桐東市正  
日主膳正  
高田豊後守  
坂倉三河守  
大田小源又  
吉田兵部少輔  
新庄新三良  
早川主馬正

三百人  
千人

合二萬五千五百人

朝鮮國船手之勢

千五百人  
二千人  
千五百人  
千人  
七百人  
二百五十人

毛利兵部  
飛升本藏守

九鬼大隅守  
坂堂依田守  
脇坂中務少輔  
加藤左馬助  
森清元守  
菅平左衛門守

千人

八百卒人

六百卒人

兼山山家六、  
日向傳次  
堀内重隆等  
牧野傳之郎

合九子二百人

名護屋

立陣勢

合拾萬二千三百人

朝鮮國

合二拾萬千三百人

濱海邊勢

都合三拾萬三千五百人

○朝鮮陣為御用意大船被仰付之

一 東ハ幸蔭より南海を經く西國九州に至り海  
子ソウ深フシより國々北ハ秋田坂田より中國子ソウ至りて  
之國く之より拾万石子付る大船二艘ソウ死用  
之可カする之事。

一 水カ手之事備へ家百石子付る十人死カおさせそ  
之く之大船に利リの申シひヒヨヨヨヨ余ユ余ユ之シ水ミ子コハ  
至シ大船オのノ死シ之シ事。

一 船納ハる十万石に付る大船三艘中船立艘  
死シ作ス一ヒのノ死シ之シ事。

一舟之入用大形船合ひをば分て西<sup>リサシヨウ</sup>善利  
舟の方より請ねのりお尋かハ舟相次  
舟請ねのり之事。

一船以ハ足計ハ次第請来等お尋めて  
一水手一人ヲ捕持方二人ハ其妻子女子之捕持方  
リ一ツのり之事。

一陣中水手申り下。女捕持を名之宿へ  
つり一のりハ是ハ度<sup>セツライ</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>  
立り<sup>ツ</sup>ハ<sup>タ</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>。

右条之<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>。天正廿年之<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>

列捕列泉所之<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>

く<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>

天正十九年五月廿日

秀吉

○朝鮮陣軍役之<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>

一曰國九列ハ<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>六百人之<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>

一中國九列ハ<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>五百人

一立舟内四百人

一江列尾流<sup>ミツリ</sup>勢方四百四十三百五十八人

一<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>。後<sup>ト</sup>名<sup>ナ</sup>護<sup>ゴ</sup>屋<sup>ヤ</sup>ハ<sup>タ</sup>一<sup>ト</sup>の<sup>リ</sup>之<sup>事</sup>三百人。是より東ハ何七二



百人一り一。

一 各別より。総列より。或く。或る。二百人

一 越後。お羽。も。二百人

石之介。去年。五月。より。或く。大坂。一。の。夜。系。表。  
以。お。勢。之。日。限。ま。ら。一。の。夜。派。お。い。守。ま。る。宿。  
陣。お。務。合。持。上。成。ま。ら。ま。ら。の。や。ま。ら。也。

文正十九年

三月十八日

秀吉

○ 就<sup>ニ</sup>なる。初。為。陣。控。案<sup>ニ</sup>と

一人。教。持。之。事。六。里。と。一。日。之。行。程。と。ま。ら。ん。也。

在。亦。之。を。是。也。六。里。之。回。お。ま。り。汁。い。次。亦。

と。ら。ん。ま。ら。の。只。宿。を。い。定。之。事。亦。後。津。

務。亦。く。ま。つ。明。路。よ。ま。ら。ん。也。

一 旅。宿。屋。賃。負。ハ。お。ま。ら。ん。也。勤。練。等。之。代。ハ。

宿。主。と。お。射。一。お。ま。ら。ん。也。事。

一 津。之。浦。と。岩。田。等。に。ま。ら。ん。也。屋。賃。負。之。事。亦。

マ。中。の。鉄。炮。之。事。亦。ま。ら。ん。也。人。制。一。の。事。

一 こと。亦。ま。ら。ん。也。扱。持。方。之。事。亦。ま。ら。ん。也。

一行の宿務述まはるる業也ツヒギをまじりさる。  
一 汝の宿にいとく理を盡く義はかまひの  
あつる事なむよとらあかひの口満コウマンよ及ましくん  
とくまの候者サニヤウモツを名に記し付ら上を以て  
おぼく事。

一 何事におひくもわらうと云一 撥くは當る高  
き候子あつていひに若知と一 一 慶洲  
褒美ホウヒに汝の事。  
一 一 雲くもやうら二入つてとまひら若儀屋  
と。ち候との月サツツツ早連お叶ツツるよ一の事と。

右条の世カタリ一のお守ルは旨ウツクなる事コト月と義あり  
し事の人を告ツギ知せ一の事とや。

又保元年壬辰三月朔日よると先陣少西橋  
津守が多坂主計以是を先ウツクうて毎日コト台ウツク  
日もたしくおつてくを務ツツ夥フヒタ一と騰チモや清ケを  
計るり漸マツクく先務も皆うらりウツクの事コト同女方の  
將軍教を立くおせ給ウツクは列ウツク之は度ウツク而ウツクま  
沖古しこまき一と事コトなん侍らとそ人ウツクの老ウツク  
若ウツクのく一と事コト波チニタは洋ヤウ邊イッせり。女ウツクのり  
候ウツク之ウツク扱ウツク方ウツク目と打つて天ウツクありわらうはさり

備わ。肥前國名護屋公昔年松浦さよ娘のち  
 一私と志すべし一漆りり。げおや旅館と被せり。  
 九列勢よりて振付りぬ。西軍現か子扶持方より之  
 飼料を以少半撤取せり。一動りせり。四十八千人  
 之兵糧を極急下り之事。之毛肅何も及ま  
 ず。ゆやと。思ひ志す。まじり。

○名護屋旅館 津作事所

一 津中丸と云屋

長吉河家仁江館

一 山里と云屋

石田本之次

志松澤年たり。一を便りて一具あり。

一 中丸より山里一裏之病地。西瓶はち。

一 山里書院 五三六号。 本田和也

一 度安何七揚野。右京方。昼く。書台也。

一 日所 津中丸下 (河原右左衛門)

一 山里おし。十月ニ十一日 寺沢志摩子也

一 津中丸のり。西五母 右京書院 五三六号

山遺小等と称しちとせよも強りすよ。  
谷ひ一畝を動しりる。云台の及て、  
り。も次の日耕作之繪る。も次の日  
花等のの色繪る。も外ハ及以之。

山里上土家所 六町四日 観音寺

山里洲産く日 日人

見まきく之繪る。 中谷の平産て魚く。

庭前をのつらり 岩堀と用日産て養

新文よいん云の葉もさ。 尾州田津

虎懐之山水も。 是れハいそ増くと思ふ。

山里大土家所 九町十日 石河土産

取付よ粉程く日あり

山里局 六町十日 石田土産

河毎よ花多くと繪る

山里局 六町十日 建部寺地

月風品産 子石控兵衛村

月洲産 戸田清左衛門村

月洲産 小西和泉寺

月心尖産 洲牧勘兵衛村

月二之丸米産 日人

一 同くの木作藁也

日人

一 山里くの木作津門

津牧勘兵衛尉

一 日二階門

石田木工以

一 日葦園

日人

款考也

一 津守丸与二丸より水之門

河原右衛門尉

一 日大平之門

津牧勘兵衛尉

右より左きに矢差也

款考也

一 日取付より二階之矢差也

日人

一 日四より五より之矢差也

丹波義作也

一 日矢差 四より十より  
西角

大和中納言

取付 二より三より

日人

一 二之丸長角。二階矢差 四より  
六より

海白伯耆守

一 日髮身之下冠木門 カフキ

大田和泉守

一 日三階之矢差 九より十一より

伊波守也

一 日南門 三より七より

龍野侍位 佐領若  
狹園

一 日非龍 カヒ 七より四方石垣

日人

一 日大平三階之撞撞堂 カ子ツクダ  
四より

丹波五良右衛門尉

一 日大平東之矢差 四より十より

大東大藏大権

一 日小矢差 四より八より

大和中納言

一 同西方二階矢差 四尺六尺

浅野道山少弼

一 同南へ取付三尺八尺

日人

一 二之丸大平矢差 三尺二尺

獨嶋伊平太

一 三之丸西方矢差 二尺二尺

羽柴河内守

一 同冠木門

羽柴右色

一 同西門 三尺二尺

羽柴加賀守利家

一 同西山角矢差 四尺四尺

日人

一 同取付 二尺四尺

日人

一 同大平東門

羽柴右色

右作多等之介之難子に在りては、  
張梅を畫

一 抄いさむしした事。中々言に絶り計たり。秀

高古とよ獨あしら。ま君りまとい。笑言教考のそ

多し。是の言之人たり。又似らむと友とせり。む人

二之峯。更あつて之隔云かよつ。排ありの城

此君ハ其勇多味度量まこれ。度き事ハ

難備絶敷之功あり。國病に。てハ日本之賊鬼

ヤ於地より。ゆりて萬人を憐れ。兆年とせしけ志

が里取て。そそのの采擧と畫せり。勿論。盛るる

時の已よる系。より樂し。こを擧め作。たきり

あし。一旦。かわや。事ハ。あるあり。と。天孫

地祇と云直なる神乃いりてた後なる切ひ  
 とも少くともあひつておとくたつと云う一神也  
 けとくあの大信小信よし限くと何進れ上よも  
 と見してくり易曰天道虧満る益損地さ喪盈  
 而流億鬼神害盈益福億人之惡盈る好億と  
 名伏見大坂之作りまるとの昔也一作りては神  
 ハゆるとおもむね一と進ハ假の事なりと云  
 至極よし及事つくとある也やとれりて攪人を  
 千人は九百九千人やと云うに非るる甚とくなく  
 足ゆ

○新陣人救減く事

陰之勢ハ西折津也如友友少以や魁とて  
 く勢ハ廿五美余騎也。船平之勢ハ九鬼大陽也。  
 崎津陰奥也。如友友馬也。友友作波のり  
 服坂中勢大補來海兄中。その勢方三万余。船中  
 事ハ。福原右も助。惣旨内益道。毛利由部大  
 捕。貸ハ。如友友。その勢方六子。惣大陽にハ。後中綱云  
 秀家。惣在切ハ。増田右衛門尉石田治部女補大旨  
 取。女補あり。洛中之仕置。等ハ。古田兵部女補也。  
 是は皆同高よし。私とわ。一とあり。善く各獲

屋行て。遂軍源。徳事可おさとの事か  
 出の。又源元幸卯月十日。悉く。枝浦へ。恙ぬ。九鬼  
 の。昔より。り。り。年。大。お。か。ま。い。久。隅。守。松。へ。各  
 言。集。り。軍。評。後。あり。我。は。一。回。一。さ。る。を。源  
 後。一。回。評。一。決。之。後。そ。こ。ら。ま。て。い。つ。か。か  
 たり。と。て。幸。ひ。の。前。致。書。之。前。書。を。お。此。外  
 何。致。か。思。ふ。意。思。云。と。あり。可。被。申。と。あり。  
 故。白。起。請。文。お。書。之。事  
 一 船中軍評後之義各多分に付ちて互をそだ  
 てつる事。

一 推之之私よふこと。難義及ひまの。助  
 之。事。  
 一 殊之敵之約あり。亦一。つ。後。之。事。  
 一 忠節之淺深。依。估。見。頭。負。た。く。も。皆。あ。つ。つ  
 上。之。事。  
 一 他人之勞を。盗。り。我。手。持。ま。し。は。り。あ。る。事。  
 一 物見之疾。亦。一。大。物。より。二。艘。宛。お。つ。つ。事。  
 一 名。獲。屋。即。本。陣。へ。は。送。付。せ。守。り。の。前。之。加  
 判。も。く。一。つ。つ。上。之。事。  
 右。条。々。お。違。え。ま。し。く。り。さ。る。違。背。之。義。は。





乃致付エニり幕コウを打まり。思オモひくの旗ハタ小橋コハシ  
おにくりもさりとて。一ヒトの野山ノヤマ乃ナを  
南海ナンカイ一ヒトの立田川タテタガハの錦ニシキを海ウミに流ナゲ入イりり  
物モノ一ヒト突ツ心ココロし。心ココロを片カタり。吉ヨシ乃ナるも。互タガヒを相アヒ  
もと思オモひ也。歎ナガメ乃ナ歎ナガメ律リツ并ナヒ地チ夜ヨ多タ此コノ船フネ中ナカを。懸カケり  
よ。吹フク風カゼと。よ。け。よ。吹フク。羽ヨク立テ釣ツリを。波なみ乃ナる。よ。中ナカの  
湊ミナトに。も。着ツ。一ヒトの。守モリ。波なみ。さ。か。せ。一ヒト。よ。に。風カゼ乃ナり。岸キ  
毎ツネき。一ヒト。た。し。に。旬ツキ奈ナい。り。り。を。し。お。こ。さ。う。さ。り。り。  
卯月ウサギ廿ニ乃ナ曉キる。風カゼが。あ。き。よ。り。り。ぬ。志シく。も  
あ。き。と。名ナ球ゴの。波なみあ。り。ぬ。一ヒト。海ウミ上ウヘに。また。船フネ

あ。し。と。小西コセイ思オモひ。海ウミ上ウヘを。こ。や。り。よ。た。り。あ。い  
何ナニも。船フネも。出デる。ん。向ムカ奴ヌ風カゼて。あ。り。い。ま。を。い。さ  
海ウミ上ウヘに。ん。と。て。船フネを。制ツレ。射シ馬バと。さ  
一ヒト。て。懸カケぎ。く。り。明アキラ法ホウ午ヌの。船フネを。た。風カゼ乃ナり  
一ヒト。に。依ヨり。射シ列レツを。船フネ乃ナる。一ヒト。あ。り。船フネの。船フネを  
小西コセイ乃ナり。一ヒト。心ココロを。し。あ。き。い。ま。を。船フネを。お。せ。よ  
ま。と。乃ナり。一ヒト。心ココロを。し。あ。き。い。ま。を。船フネを。お。せ。よ  
や。く。や。と。て。船フネを。お。一ヒト。六ム里リも。懸カケつ。ん。と  
お。引ヒキ。一ヒト。ま。よ。又マタ逆サカサマ風カゼ乃ナり。船フネを。お。一ヒト。六ム里リも。懸カケつ。ん。と  
く。り。小西コセイ乃ナり。船フネを。お。一ヒト。六ム里リも。懸カケつ。ん。と

風をうきこえりて一に響きあはるる一は神なり  
あふ。船をおとつて甲さしして待居はくお  
月廿八日乃西之刻海にも船もうねと船を  
お。金山海へ懸とひらく舟上り。町を折  
破るとせしに敵二万金持。矢あともあを作てま  
ちかま村あり。あを鉄炮をひらくときめお  
ましく込入。船子二二之丸入。追入。甲城を辰巳之  
刻に撃捕上下八子五百餘人。松代子あくくあり。  
そ外生捕之者二百餘人。比はま子遊辭を  
ひらき道の指子を問ふ。是より三十里成貴に

敵と。さく移ぎと云城者とも。小西打まき。移士  
に向く云けり。今お龜粉骨。おは敷く。さくら  
ま。お大ゆり。我りしと敷は。是子体をあけり  
むた。おまをげ。お城を先率のいほめりて。  
行やく久用心。さしひく。あんとそ。他之勢  
子。あまを。事に扱を。いさ。とく。移ぎを攻捕。  
他乃國の名城を。一日のうちに。二三所攻り多く  
の敵を討捕。日本子後。所取の津威に。お  
む。と。神。たゆむ。おま。し。て。の。あ。り。お  
ま。は。何。も。う。き。や。う。に。回。り。あ。り。さ。う。く。く。は。つ。と。お

寛永四年

二十六

しゆとせよ鳥の飼ふよきにしゆく人よして  
ゆつり及びひ。年一り部子おわ。く孫さり  
ゆく時と時を作り立町を打破く。金山  
悔之落城。諸將を挫き甲に志落りよやおそ  
るん。防ぎ。戦りんをせと。悉く落りにけり。お  
西より東。木戸作。右邊の討き。手勢のつ連  
急。首九百余を取とし。まぬの當城子陣を  
とへ。人る乃息也。やとめ子。り。まぬちく。あに  
敵多。勢に。く。ま。り。小西。取。成。を。解。子。た。り。  
敵乃。子。を。子。子。に。答。ふ。た。え。や。

○忠別城之り

都を守護せんたり。忠別城とて。地之利を  
名城あり。南に剛兵之將。数人。軍勢之  
誇。紅。雲。下。の。さ。ら。乃。遠。志。あ。ま。く。楯。張。り。兵  
糧。以下。飽。ま。て。入。置。都。に。色。此。城。を。お。た。り。  
や。と。安。し。お。た。り。た。り。と。り。通。解。り。けり。

○倭軍乃宰相秀家。小西を助成し。前よこ。忠信  
海の事。

は。親。親。子。小。西。持。成。も。の。忠。軍。勢。に。先。立。事  
莫。ち。行。て。大。山。海。と。く。孫。さ。り。城。を。攻。め。

振種盛幸喜以戰一軍の次弟をツヒタつり  
 考家ハ八雲目たり。小西り先陣を考家心  
 えり。母の。家老の者やをカハラウ呼集ヨブ。標旗あり  
 小西り先陣シロクシ接辭シロクシあり。孫シロクシ入して討死を  
 せり。將軍の御為と云。某久と員を急行り  
 一。各形もつたり。いさ敵てんよと云  
 時各形もつたり。いさ敵てんよと云  
 小西り先陣接辭あり。孫入して討死を  
 せり。將軍の御為と云。某久と員を急行り  
 一。各形もつたり。いさ敵てんよと云

以へ推り進と次弟を云々。敵百艘乃并戦や  
 考一も進ハ。程多く吹風と云。けし吹か東  
 もと。ゆり。金山海よりぬ。小西り家老  
 旗を勸り。死出津波海へ。祝多刷  
 ひけ。ま。け。別忠勅の子。こ。は。や。は。は。は。  
 以へと云。一。り。の。ま。に。り。上。り。考家  
 あり。て。は。敵。勸。誰。あり。く。小西に。肩。を。ま。  
 る。ん。や。某。り。先。陣。の。り。死。出。津。波。海。へ。は。は。は。は。  
 の。糸。案。内。り。者。や。お。保。り。と。て。  
 卒。死。羽。擡。伸。微。志。り。し。に。度。も。表。は。は。は。は。

平揚之是可為市商家之忠功也。某と  
越席。後海之義。方先陣を以て許す。  
し。曉至。千尺金。少海。明日。日。を。表。し。こ。り。系。陣。  
方。す。の。り。換。の。系。不。詳。以。こ。り。傳。へ。

五月二日

考家

小西揚津也考家

揚津也考家之書。習し。殊。凡。不。辨。收。之。系。  
る。此。上。る。一。一。其。克。く。も。是。子。孫。の。可。得。と  
ち。う。く。も。い。う。や。う。乃。事。さ。ん。め。り。と。笑。を。合。こ  
に。くり。加。又。故。主。少。歌。小。西。に。先。陣。戦。こ。さ。終。

一。る。も。其。會。に。思。ひ。揚。津。也。り。終。一。後。を。亦。じ  
も。同。さ。事。に。傳。へ。し。こ。も。久。く。和。を。義。陰。子  
ら。り。小。西。の。り。や。さ。か。く。た。ん。答。す。主。少。歌。取。り  
少。く。怒。り。つ。て。二。日。より。先。陣。人。の。い。さ。を。傳。  
え。し。物。致。し。たり。日。中。替。又。器。後。海。で。由。り。殊。  
ぞ。へ。後。系。あり。一。一。小。西。里。を。考。家。列。之。城。を  
も。考。家。捕。取。抽。志。勤。く。也。と。亦。に。く。傳。へ。主。少  
助。本。代。作。右。忠。射。す。と。呼。あ。り。ち。津。揚。也。考。家  
後。海。一。考。家。し。明。日。之。中。系。陣。多。く。と  
たり。い。さ。め。考。家。列。之。城。を。考。家。捕。つ。と。思。

ぬいりくまゝと云けしは何れがたなり。まゝ  
あゝとてをいひしと用さし。成之刻よ打立  
ぬく丑之時とおれ。まじは城の幕に思ひ言。  
壇と時考をよ。嚟く考を奉。一の城中寝  
取に山の入たりゆく。あつら。矢交り  
まし城も塞あつと。いふに於て就寢。我さきに  
返るんととのせり。さりの。あつら。城上より  
に。うろつ風還て猫と。喧憤ひよやま。方人多く  
の傍乃中よりま。六。さ。ら。や。取合せ。往し。刀を  
以防我し。う。の。甚。以。野。一。小。西。ま。の。ひ。乃。ま。さ。て。

伊弉の者百人。一。ま。ま。ま。ま。城乃ほ。一。  
山下を據え。一。の。敵。度。に。ま。ま。の。騎。兵。が  
ちふぶくせ。一。の。ま。ま。一。の。勢。ハ。一。致。せ。ま。あ  
抱。ろ。り。一。の。且。専。く。ま。ま。ま。ま。ま。ま。防。我。の  
勢。を。ま。ま。一。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
一。の。ま。ま。と。小。西。一。の。ま。ま。ま。ま。一。の。ま。ま。ま。ま。  
者。と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。一。の。剛。騎。若。し。上  
ま。下。と。ま。ま。ま。ま。ま。ま。我。の。乃。ひ。一。の。ま。ま。の  
お。ち。あ。一。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
ゆ。た。ら。が。一。の。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

とかりき取勝時を奉討捕一育と合集方  
おのちせしきけり忠列之誠意を一由都一  
え一六。元信之面と保して曰此内裏滅亡  
之何ありぬ敵不逃おに重器とよこま  
せ。さな津敷に火を放ち煙のまをまに何  
す。しきりせあひ。一庭おえさんやと陣をま  
か上下に義に回一上帝と國舞平にのせま  
かく計の信をよ之神いと抱さひ。かくそ  
の四信内裏に火をさるら。すんを焼亡之  
時あまにや焼さるけま。来く帝此の跡を

あつてくおよぶる。毫に年久く何れまし  
都をうりそとぞのさるくにもまの形勢  
中く物よさるそありま。君成跡に足成  
る。先定はつとをばし何り。親ハ子成る心。  
子ハ親の行末にあらくし。日來居候の  
一僕を考や。限子頼一人のつらまよハ  
せ給つんと叫よ。夢にやまおん。そまは  
表れり。又老ら父母の平を。我子を戻  
まより多く。父母をハ赤にほ。先ハ君  
乃先達をゆく。おもくありま。入汁



○上帝之御事

天子ハ弟三乃宮と石田道三と云々義列と云々  
有之にハ二男乃王子と云々  
此ハ信長と云々  
の宮人二男ハ附まつせ一先任に  
有る云々  
此勝子ハ六歳九才作のおきたの云々  
務と抱むかく先を御養志おれと云  
祥に足さぬ云々  
見をゆめく書き務と云々

親しく御事一てり

○小西都入之事

忠列之在已に南と唐路ありは所行て  
入之御事云々  
石田信子女捕大台刑了女捕子おれ西將陣  
書し書おれと云々  
評議有は都入之先陣を計ぬと云々  
陣八日午半に御事云々

私より言らざらん事清はるかに似たり。一向  
取まらざる旨を政てしり。東平の事  
まじくあはれ支陣の自給治事にしんとて、政は  
同士軍ありんとす。ぬがめきまのしり。おむ備  
支陣の西交にいくをもちと。この所を城  
と只一人のしりおにむらじまの社中。この故  
入く支陣のしりおを分て何故。あして軍  
あるく是くしりおとまけまの山西程の腹  
おにありとて。都入之海さし二船ありま  
は南大門のしり程百里にけり。く大何ま。

東大門の百有餘墨を置く。以て在川を。去て  
大山の多く。何り曲ゆしけり。何まめくも主計  
以てのこ次事。くく。と。けまの端。つもお  
とま。やうにあり。まことと感。つ。主計はへ  
こそ首か。ことあま。大何ま。と。ぬく。より  
入たんとて。は南大門。く。あま。く。り。お西ハ  
ま。く。生。程。の。ま。り。二。百。余。人。山。川。子。達。者。ま。り  
と。都。乃。安。業。也。ま。の。り。者。を。助。守。と。ま。い。ま。り  
ま。い。お。む。し。け。ま。の。ま。れ。自。由。金。か。つ。と。け  
内。川。よ。さ。ぬ。り。者。を。二。十。余。人。主。計。以。向。を

あり大川よりつり。かねて乃船を信一と  
てにかりかき返らるや、此事をハ御も名を志す  
り大川より返けるよ。廣き事十餘町、船  
つく。まゝい海一かりしうちをせし。船やると川  
上より上へつり。中へく入まじを船一艘もる。  
美濃の川やあると。二里下を為とせ侍  
つせ。たよりけし、いふを日ハ空一く、河邊に  
宿陣してくり。小西ハ五月十日の夜、刻子  
都に返りて、東大川とくく入る。魚  
やうま。又陣き残りんとせ。現もく入る。

船を四方石垣きくして。乃きき事十  
陣もる。中へ入る。また、  
こまんくやある。一、  
一、き者けり。水門よりま  
け、五十人も百人も入る。境にあきか。つり  
にちを心ハ付く。けし、あつハあ、又、  
乃水門よ。鉄をうらつ。能よ、  
四、八、入る。が、あ、本、  
ちをあきとて。鉄炮の臺と  
と孫と入る。門の戸の、  
二、

大園三  
の眼をいりうかぬ軍ぞくけとる。乱妨とて  
とて酒家よとてととて軍法堅く  
し。おろくもく。かの合戦とてとて入  
くも仕形をい

福日。大門ありは法を事よ。多の乱をいさん  
よとて法を事。軍法堅くして入せ  
し。一處たり。完。泉州保の比下人ぬ法をい  
く者。一。元長あり。勇吉あり。水保乃  
比。子法をつき。一人。是のわたり。めとてか  
や。の。時。志。の。も。も。思。り。法。一。て。入。る。國。に

徳者あり。一。の。ま。ま。き。よ。ま。つ。そ。

かくそ。洛中。く。折。と。り。心。に。人。更。り。なり。内裏  
よ。く。く。ん。ま。さ。せ。堅。ま。宮。門。と。て。は。も。ま。六。地。さ。ひ。く。ま  
り。山。西。先。外。知。を。そ。て。我。勢。を。一。旦。く。賊。軍。と。て。い。  
四。門。と。も。固。め。後。集。の。ま。の。み。く。め。法。し。玉。御。之。勢。  
ま。汁。攻。先。手。と。て。勢。進。之。ま。く。門。と。明。よ。と。て。い  
し。時。是。ハ。山。西。初。入。之。先。陣。し。て。大。門。を。かく  
め。者。一。た。り。用。の。事。あ。ら。う。は。又。三。人。ハ。入。あ。り。と  
す。し。り。の。ま。攻。て。かく。と。若。ぬ。か。ま。後。お。や。て。い  
ま。ま。あ。ら。う。と。腹。を。立。り。や。く。教。に。入。る。ハ。何。り。も

るん大王ハ追討由らむ。せりへはめ事と進  
えんと。洛およそく。そと敵とせりたり。

○王子と追討をふる計以勸之事

主計ハ洛中諸侯の負<sup>カス</sup>斗も漢王子と進急  
うそをらん工更と費<sup>ツイマ</sup>。謀<sup>ハカ</sup>謀<sup>シ</sup>と年<sup>ニ</sup>集<sup>ル</sup>計  
あつた。初<sup>ハ</sup>入<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>先<sup>ニ</sup>陣<sup>ハ</sup>某<sup>ニ</sup>せん<sup>ト</sup>。所<sup>ハ</sup>法<sup>ハ</sup>も被<sup>レ</sup>里。  
進<sup>ス</sup>一<sup>リ</sup>を。大<sup>ニ</sup>河<sup>ニ</sup>に碍<sup>サ</sup>く。西<sup>ニ</sup>に越<sup>ス</sup>一<sup>リ</sup>。  
主<sup>ノ</sup>念<sup>ハ</sup>之<sup>ヲ</sup>限<sup>ラ</sup>り。せりく。太子<sup>ハ</sup>進<sup>ス</sup>急<sup>ニ</sup>と思<sup>ハ</sup>。  
ゆ<sup>ニ</sup>約<sup>ス</sup>立<sup>テ</sup>おる。う<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>。落<sup>チ</sup>のひとせ<sup>テ</sup>。一<sup>リ</sup>。  
其<sup>ノ</sup>刻<sup>ハ</sup>よ<sup>ク</sup>。あ<sup>リ</sup>。た<sup>リ</sup>。を<sup>ハ</sup>。何<sup>ト</sup>とす。一<sup>リ</sup>。

付<sup>ク</sup>人<sup>ノ</sup>内<sup>ニ</sup>。乃<sup>チ</sup>。事<sup>ヲ</sup>用<sup>フ</sup>。去<sup>リ</sup>。人<sup>ノ</sup>。て<sup>ハ</sup>。連<sup>ル</sup>。具<sup>等</sup>ハ。好<sup>シ</sup>。  
次<sup>ニ</sup>。身<sup>ニ</sup>。沙<sup>汰</sup>。一<sup>レ</sup>。た<sup>リ</sup>。よ<sup>ク</sup>。う<sup>ニ</sup>。び<sup>マ</sup>。城<sup>ノ</sup>。後<sup>ニ</sup>。一<sup>レ</sup>。あ<sup>リ</sup>。せ<sup>リ</sup>。  
屋<sup>ノ</sup>。う<sup>ニ</sup>。心<sup>ヲ</sup>。と<sup>シ</sup>。信<sup>ス</sup>。よ<sup>ク</sup>。と<sup>シ</sup>。を<sup>ハ</sup>。の<sup>ヲ</sup>。付<sup>ク</sup>。に<sup>テ</sup>。う<sup>ニ</sup>。う<sup>ニ</sup>。  
よ<sup>モ</sup>。及<sup>リ</sup>。ん<sup>ト</sup>。は<sup>シ</sup>。在<sup>リ</sup>。林<sup>ノ</sup>。草<sup>ノ</sup>。人<sup>ノ</sup>。佐<sup>ト</sup>。と<sup>シ</sup>。呼<sup>ビ</sup>。て<sup>ハ</sup>。ひ<sup>ト</sup>。そ<sup>ク</sup>。よ<sup>ク</sup>。  
や<sup>ハ</sup>。用<sup>フ</sup>。を<sup>ハ</sup>。せ<sup>リ</sup>。よ<sup>ク</sup>。と<sup>シ</sup>。有<sup>リ</sup>。一<sup>レ</sup>。く<sup>ニ</sup>。わ<sup>ク</sup>。と<sup>シ</sup>。お<sup>ウ</sup>。一<sup>レ</sup>。回<sup>ル</sup>。と<sup>シ</sup>。  
ら<sup>テ</sup>。一<sup>レ</sup>。う<sup>ニ</sup>。南<sup>ノ</sup>。事<sup>ヲ</sup>。調<sup>ル</sup>。と<sup>シ</sup>。其<sup>ノ</sup>。下<sup>ニ</sup>。刻<sup>ハ</sup>。よ<sup>ク</sup>。あ<sup>リ</sup>。ひ<sup>ト</sup>。  
き<sup>テ</sup>。屋<sup>ノ</sup>。う<sup>ニ</sup>。あ<sup>リ</sup>。ん<sup>ト</sup>。道<sup>ヲ</sup>。へ<sup>テ</sup>。あ<sup>リ</sup>。き<sup>テ</sup>。あ<sup>リ</sup>。か<sup>ト</sup>。と<sup>シ</sup>。あ<sup>リ</sup>。あ<sup>リ</sup>。  
中<sup>ニ</sup>。に<sup>テ</sup>。二<sup>十</sup>。里<sup>ノ</sup>。と<sup>シ</sup>。あ<sup>リ</sup>。あ<sup>リ</sup>。一<sup>レ</sup>。人<sup>ノ</sup>。て<sup>ハ</sup>。主<sup>ノ</sup>。計<sup>ヲ</sup>。以<sup>テ</sup>。陣<sup>ヲ</sup>。お<sup>ウ</sup>。  
よ<sup>ク</sup>。あ<sup>リ</sup>。ゆ<sup>キ</sup>。同<sup>ク</sup>。よ<sup>ク</sup>。清<sup>ク</sup>。一<sup>レ</sup>。熱<sup>ク</sup>。に<sup>テ</sup>。か<sup>ク</sup>。と<sup>シ</sup>。あ<sup>リ</sup>。あ<sup>リ</sup>。各<sup>ノ</sup>。具<sup>ヲ</sup>。  
さ<sup>メ</sup>。く<sup>ニ</sup>。板<sup>ノ</sup>。も<sup>ト</sup>。と<sup>シ</sup>。あ<sup>リ</sup>。あ<sup>リ</sup>。一<sup>レ</sup>。を<sup>ハ</sup>。感<sup>ス</sup>。と<sup>シ</sup>。あ<sup>リ</sup>。あ<sup>リ</sup>。

ぬりきりありしをいひつらもむまに抄取給へりしを  
 一業内志<sup>志</sup>知<sup>知</sup>方に付く又業内者<sup>者</sup>を求め遣  
 急<sup>急</sup>のハ大子ハさやあんとさ<sup>某</sup>の縣<sup>縣</sup>におり  
 ありあすとあり。清正天<sup>天</sup>の与<sup>与</sup>家<sup>家</sup>幸<sup>幸</sup>一<sup>一</sup>邦<sup>邦</sup>と信<sup>信</sup>つ  
 形<sup>形</sup>おけりけり鉄炮<sup>鉄炮</sup>を射<sup>射</sup>入<sup>入</sup>ら<sup>ら</sup>入<sup>入</sup>おめさ<sup>さ</sup>とあ<sup>あ</sup>ん  
 て攻<sup>攻</sup>入<sup>入</sup>むとひりめさあ<sup>あ</sup>利<sup>利</sup>ぬ城<sup>城</sup>中<sup>中</sup>堪<sup>堪</sup>かひて和<sup>和</sup>を  
 乞<sup>乞</sup>あふま抄取<sup>抄取</sup>ま<sup>ま</sup>我<sup>我</sup>子<sup>子</sup>遊<sup>遊</sup>一<sup>一</sup>は<sup>は</sup>二<sup>二</sup>男<sup>男</sup>乃<sup>乃</sup>志<sup>志</sup>子<sup>子</sup>十  
 七<sup>七</sup>歳<sup>歳</sup>主<sup>主</sup>外<sup>外</sup>官<sup>官</sup>人<sup>人</sup>百<sup>百</sup>余<sup>余</sup>人<sup>人</sup>清<sup>清</sup>正<sup>正</sup>を<sup>を</sup>し。清<sup>清</sup>正<sup>正</sup>も借<sup>借</sup>取<sup>取</sup>  
 の救<sup>救</sup>よ加<sup>加</sup>く清<sup>清</sup>泊<sup>泊</sup>乃<sup>乃</sup>市<sup>市</sup>を<sup>を</sup>營<sup>營</sup>入<sup>入</sup>入<sup>入</sup>ま<sup>ま</sup>とせ<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>  
 秀<sup>秀</sup>吉<sup>吉</sup>公<sup>公</sup>へ<sup>へ</sup>ま<sup>ま</sup>旨<sup>旨</sup>注<sup>注</sup>進<sup>進</sup>尸<sup>尸</sup>上<sup>上</sup>一<sup>一</sup>く<sup>く</sup>ハ<sup>ハ</sup>市<sup>市</sup>持<sup>持</sup>極<sup>極</sup>大<sup>大</sup>と

なすことして吉克の賜物黄金五子及び被下け  
 也

○秀吉公就<sup>就</sup>清<sup>清</sup>母<sup>母</sup>堂<sup>堂</sup>正<sup>正</sup>例<sup>例</sup>清<sup>清</sup>上<sup>上</sup>之事  
 清<sup>清</sup>正<sup>正</sup>に<sup>に</sup>後<sup>後</sup>下<sup>下</sup>乃<sup>乃</sup>清<sup>清</sup>母<sup>母</sup>堂<sup>堂</sup>大<sup>大</sup>政<sup>政</sup>ハ<sup>ハ</sup>正<sup>正</sup>一<sup>一</sup>ハ<sup>ハ</sup>そ<sup>そ</sup>ら  
 子<sup>子</sup>を<sup>を</sup>け<sup>け</sup>と<sup>と</sup>せ<sup>せ</sup>給<sup>給</sup>ひ<sup>ひ</sup>り。秀<sup>秀</sup>吉<sup>吉</sup>公<sup>公</sup>は<sup>は</sup>海<sup>海</sup>の<sup>の</sup>國<sup>國</sup>へ<sup>へ</sup>な<sup>な</sup>む  
 後<sup>後</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>給<sup>給</sup>ふ<sup>ふ</sup>也<sup>也</sup>とお<sup>お</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>せ<sup>せ</sup>給<sup>給</sup>ふ<sup>ふ</sup>。何<sup>何</sup>の  
 子<sup>子</sup>を<sup>を</sup>教<sup>教</sup>人<sup>人</sup>とい<sup>い</sup>や<sup>や</sup>と<sup>と</sup>肥<sup>肥</sup>前<sup>前</sup>國<sup>國</sup>か<sup>か</sup>や<sup>や</sup>と<sup>と</sup>云<sup>云</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 お<sup>お</sup>り<sup>り</sup>。法<sup>法</sup>候<sup>候</sup>大<sup>大</sup>丈<sup>丈</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>一<sup>一</sup>ハ<sup>ハ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
 清<sup>清</sup>正<sup>正</sup>一<sup>一</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>に<sup>に</sup>な<sup>な</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>云<sup>云</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
 そ<sup>そ</sup>も<sup>も</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>。六<sup>六</sup>月<sup>月</sup>半<sup>半</sup>より<sup>より</sup>例<sup>例</sup>あり

といえぬあひりり日よそへむを流し。秀次公  
 ともごころ事毎日の事させあひり。いせうそこ  
 むいよくむをなく関えさせあひ。秀次公いひ  
 り。二をひなご事なり。いさなり。内子  
 いま一たひんをそてまつり。屋をちぬらせりん  
 とて。軍の被取ぬまにうの家康の利家おと  
 作とて。七月廿二日。あけか。あか。か。子。御  
 船よて。う。せ。り。り。御。取。の。兵。陣。前。は。と。め。り  
 一。軍。取。た。の。あ。り。

○名護屋御為主兵陣前

大和中納言  
 勢別官津守将  
 伊賀侍辰  
 江州八幡侍辰  
 播州龍野侍辰  
 朽木河内守  
 水野和泉守  
 伊波清吉  
 橋本伊賀守

森右近大吏  
 友室佐渡守  
 浅野深三少弼  
 同息元京大吏  
 同金身本下宮内少輔  
 小川玄佐守  
 伊波右門守  
 生熊源介  
 石指兵忠尉

河原右左衛門尉

羽衣河内守

日根野織部正

伏屋亮孫守

佐之右河内守

駿川守左衛門尉

北条孫三郎

堀河守平太

北条孫一郎

美濃部四郎三郎

石川出雲守

吉田又左衛門尉

伏屋小兵衛尉

西川八左衛門尉

右衛門右左衛門尉

佐友後河守

大塚与一郎

落合右左衛門尉

蜂屋守左衛門尉

安井次右衛門尉

吉田又左

南部孫又八

石河兵衛

關東系

江戶大綱云家康以

結城少將

伊左衛門尉政宗

小条助六郎

北羽侍從

宇都文治三郎

金津侍從氏以

佐竹侍從

小条美濃守

吉田安房守

吉田源三郎

淺田下總守



那次之

南部大膳

小半介

六卿之

小野寺孫千一郎

内膳宮内女補

高尾大次郎

小園之

明末如久宰相利家

上校越後守相宗孫

安房里見侍從

秋田大守

佐野出吏

小介川治戸女補

澁澤又兵衛

三宅伊勢守

由里之四人

明末松平信俊重

明末久之次郎

同義作守

海江伯耆守

吉本紀伊守

村上圓防守

東之泚門番之

一番

二番

三番

五馬中務江津守

大野本甚忠

石田本二叔

大田和泉守

長束大茂右補

江列  
歌守守

四百番

寺澤志麻子  
河牧勘兵衛尉

西之丸 河家 倭家

七百人

富田光正尉監

八百人

金本林丸源守

二百人

蜂屋大膳左衛

三百五拾人

戸田幸兵衛守

三百五拾人

奥山伏波守

四百人

池田倭中守

四百人

小出信房守

五百人

津田左門守

二百人

上田三右衛

八百人

山崎左馬守

五百人

稻葉兵衛尉

二百人

河崎辰左衛

二百人

市橋下總守

二百人

赤松上總介

三百人

羽柴下總守

東二之丸 新橋後部

三百人  
二百人  
二百五十人  
二百人  
二百五十人  
二百人  
百人

羽柴三善信俊  
中津大藏大輔  
右田鐵平  
安房右衛門  
新田捨伏  
生駒修政亮  
中江武部左衛門  
生駒之友亮  
海江大炊助

二百人  
九十人  
百二十人  
百五十人  
百人  
二百人  
百七十人  
四百人  
五百人  
二百人

河尻肥前守  
池田孫右衛門尉  
大垣与一守  
本下元常亮  
矢部忠厚守  
多高玄蕃守  
与澤忠磨守  
与西後松守  
同次郎介  
福原右馬助  
竹中丹後守

二百七十人  
百人  
七十人  
二百五十人  
百五十人  
百人  
二百人

長吉川右左衛門  
松島右京丞  
河津右兵衛尉  
内家志麻平守  
内家内膳正  
服尸左佐守  
右左衛門尉

右一日一敷死之痛念一と之勤仕之也

御中丸大平御門番定

一番  
二番

服部左佐守  
垣屋後河守  
藤部左佐守

中丸裏表御門番定

一番  
二番  
三番  
四番

中江式部左衛門  
山崎右京丞  
石田左兵衛  
長谷川右兵衛尉

五番

石河内村

六番

古澤志麻子

七番

長生大藏木橋

八番

服戸志麻子

九番

高田捨次

十番

福原石馬助

右一日一表苑堅之助

三之丸

御馬廻

一番 石川組

石川紀伊守

出搦右任

佐友半介

全森掃部助

田丸勝八郎

上枝勝七郎

片岡森次

中村七助

雲林院忠介

勝川助之介

森村三平

坂井理右衛門

水野源次

水谷次右衛門

坂井友九郎

丹羽源次

落合新三

高田源次

市之市作

土肥久化

上田孫三郎

宮村清三郎

平井金十郎

立野孫十郎

二番 中野組

中野左兵衛尉

喜山孫八郎

坂本新八

村上左兵衛尉

小澤新八郎

中谷川宗次郎

吉田辰四郎

桑原孫介

池山新八郎

北原辰四郎

水原辰三郎

中野孫十郎

佐野辰三郎

矢野辰三郎

佐野辰三郎  
新十右衛門尉  
高田辰三郎

佐野辰三郎  
高田源十郎  
河原孫吉尉

三番 中野組

佐野辰三郎

中野辰三郎

津田新八

赤野辰三郎

坂本辰三郎

河野辰三郎

一柳大六

安見辰七

尾村辰三郎

山名辰三郎

日比野小十郎

矢野源吉郎

岸久七

廣原加吉郎

大谷次郎左衛門尉

山羽庸彦

長江敏十郎

山口三十一郎

落田源次郎

田中友七郎

松植次郎吉

五十森少年次

安西左衛門尉

山内半三郎

堀松左衛門尉

田中三十一郎

四番 栗原組

栗原次右衛門尉

秋名友次郎

本石百八郎右衛門

多摩尾久八郎

村井吉兵衛尉

津田掃部助

平野九郎右衛門尉

河田九郎左衛門尉

平野新八郎

越智又十郎

赤田右衛門助

生熊丹左衛門尉

板原其七郎

中川忠助

長中清彦

伊地知与五郎

大庭右衛門左衛門尉

長中平吉

平林権六郎

五米田

中井組

中井平右衛門尉

松原六郎若水尉

小出源平三郎

吉田三左衛門尉

石川重助

小崎若右衛門尉

山名勝七

矢野九郎次郎

赤尾若八郎

多田若右衛門尉

海口傳三郎

荒川助八郎

吉田九一郎

少原若七郎

石尾与若水尉

安宅龜源八郎

藤田清左衛門尉

松浦令平

茨木兵衛

加久茂山助

佐久右兵衛

吉田又吉郎

六米田 堀田組

堀田國十右助

野上村次兵衛尉

余部若三郎

若原若清左衛門尉

大津久兵衛尉

桑山市兵衛

上條氏了大納

村原宗七郎

伊木半七

大山孫兵衛尉

山本加兵衛尉

山田平兵衛尉



井上茂三

林松吾清尉

生徳与三郎

与清久右忠尉

矢野久之三郎

園基左忠尉

村瀬幸八郎

吉田市彦

西米屋清四郎

平丸廣間之末四郎

与四郎

一壽 伊波能

伊波丹後守

津田少右清尉

桑原物八郎

福原与三郎右忠尉

木合又左忠尉

长垣清左忠尉

吹田毛右忠尉

村岡物堅

墨村清右忠尉

那波清左忠尉

坂堂孫右忠尉

上原次郎右忠尉

三上大藏丞

酒井助左

小栗助兵右尉

三坂与三右忠尉

墨田清止三郎

尾関基介

津田新右忠尉

清水清左忠尉

竹内虎介

与鶴清三郎

吉田与三清尉

吉田茂三郎

松井新介  
三村九郎左衛門尉  
村上兵部丞

某四郎左衛門尉  
山口左衛門尉

二守為 河井恒

河井九郎左衛門尉  
森宗兵衛尉  
生駒為授守  
石河忠左衛門尉  
生駒源介

三好源九郎  
三好新右衛門尉  
三好為三  
作之為左次  
松植平左衛門尉

飯沼右衛門尉  
文房甚右衛門尉  
吉右衛門左衛門尉  
伊藤左衛門尉  
林甚右衛門尉  
林甚次郎  
三宅甚右衛門尉

北郭佐左衛門尉  
河井次右衛門尉  
如次左衛門尉  
藤野左衛門尉  
林助十郎  
生駒佐十郎  
藤口新介

三守為 土守恒

美野藤人

赤松次郎左衛門尉

濱田少平次

山守新四郎

大田平左衛門

平彦作

塚井新右衛門尉

佐々権左衛門尉

河心善三郎

平塚同備

と井右衛門

朽木六右衛門尉

赤松伊豆守

濱田三左衛門尉

濱田部介

橋本新六

濱田權八郎

本村友介

清原左衛門尉

乾彦九郎

貝原立右衛門尉

吉野左衛門

平野甚介

四番 佐友組

佐友隈波守

吉吉川甚兵衛尉

竹橋三右衛門尉

福富平兵衛尉

上野中勢次郎

安部仙三郎

飯沼三右衛門尉

伊丹兵衛尉

小笠原左衛門尉

大庭三右衛門尉

高尾清三郎

飯沼合盛

河村團善助

吉野三右衛門尉

大屋ゆき

河村慶三

余田源三郎

吉田宗四郎

吉田宗五郎

後尾善左衛門尉

佐藤隆六郎

赤部七介

喜木善右衛門尉

佐藤ゆき

橋中九右衛門尉

吉河新介

安足新六郎

吉河隆三郎

舟津九右衛門尉

五番 尾子記

尾子三右衛門尉

東条純伊守

高橋三右衛門尉

永原隆左衛門尉

上田勘右衛門尉

井上新介

河毛治右衛門尉

野口百左衛門尉

渡邊九右衛門尉

松村与八郎

喜日九右衛門尉

中村掃平助

尾坂新次郎

山根隆理真元

三好助右衛門尉

橋原傳左衛門尉

田中了十傳次

喜平左衛門尉

河毛源三郎

松田源右衛門尉

水原又逢

伊波中左衛門尉

河毛孫次郎

安波吉兵衛尉

賀茂清平太

河割源次郎

田原中左衛門尉

野呂多次郎

甚木助右衛門尉

六番 速水組

速水甲斐守

白根之丞助

山中又左衛門尉

依之孫千一郎

白根之丞左衛門尉

渡邊中左衛門尉

中川少左衛門尉

子秋又三郎

山村之丞左衛門尉

森友右衛門尉

藤原又一郎

依之孫三郎

高善助

宮崎中四郎

竹内源介

安藤信右衛門尉

少坂助六

史口百甚次郎

菟田伊左衛門尉

森村右衛門尉

甚野左衛門尉

依之孫三郎

山中又左衛門尉

甚山助六

南見孫介

山村五助

於村ら石巻門射

右一日一救死を憐念<sup>ケケタイ</sup>として勅<sup>トシ</sup>付<sup>レ</sup>る也

七月廿二日

御朱印

御母<sup>ホタラフ</sup>堂大政所御吳例日におとらへさせま  
し周<sup>コイ</sup>て醫<sup>シヤク</sup>所<sup>シヤク</sup>に上<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>趣<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>奏<sup>シ</sup>次<sup>シ</sup>へ<sup>シ</sup>上<sup>シ</sup>  
志<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>毎日<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>流<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>障<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>氣<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>  
被<sup>シ</sup>聞<sup>シ</sup>召<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>扱<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>つ<sup>シ</sup>せ<sup>シ</sup>給<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>也<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>七月<sup>シ</sup>廿<sup>シ</sup>二<sup>シ</sup>日

各<sup>シ</sup>獲<sup>シ</sup>度<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>主<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>呈<sup>シ</sup>敷<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>分<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>息<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>給<sup>シ</sup>ふ<sup>シ</sup>に  
同<sup>シ</sup>月<sup>シ</sup>晦<sup>シ</sup>日<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>上<sup>シ</sup>差<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>つ<sup>シ</sup>大<sup>シ</sup>政<sup>シ</sup>所<sup>シ</sup>へ<sup>シ</sup>入<sup>シ</sup>せ<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>ま  
や<sup>シ</sup>同<sup>シ</sup>世<sup>シ</sup>給<sup>シ</sup>入<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>也<sup>シ</sup>廿<sup>シ</sup>五<sup>シ</sup>日<sup>シ</sup>薨<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>上<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>わ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>と  
ひ<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>え<sup>シ</sup>入<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>致<sup>シ</sup>南<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>等<sup>シ</sup>人<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>か  
東<sup>シ</sup>より<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>某<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>申<sup>シ</sup>せ<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>流<sup>シ</sup>つ<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>さ  
備<sup>シ</sup>へ<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>流<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>ん<sup>シ</sup>え<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>あ<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>申<sup>シ</sup>せ<sup>シ</sup>世<sup>シ</sup>給<sup>シ</sup>  
ひ<sup>シ</sup>ぬ<sup>シ</sup>志<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>流<sup>シ</sup>志<sup>シ</sup>え<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>止<sup>シ</sup>さ<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>く  
て<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>ぬ<sup>シ</sup>申<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>建<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>廣<sup>シ</sup>君<sup>シ</sup>へ<sup>シ</sup>出<sup>シ</sup>給<sup>シ</sup>て  
御<sup>シ</sup>事<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>平<sup>シ</sup>交<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>家<sup>シ</sup>朝<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>御<sup>シ</sup>賜<sup>シ</sup>を<sup>シ</sup>不<sup>シ</sup>申<sup>シ</sup>奉<sup>シ</sup>し<sup>シ</sup>こ  
由<sup>シ</sup>ら<sup>シ</sup>り<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>紙<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>思<sup>シ</sup>ひ<sup>シ</sup>一<sup>シ</sup>紙<sup>シ</sup>伝<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>たり<sup>シ</sup>。

一入御孫交侍りて。くらりせり。悔<sup>レ</sup>ひて  
 かひそなき。御取おさぬのり。大坊も。主  
 旨被<sup>レ</sup>神お吉と守つ。うなら。例<sup>ナ</sup>より。世<sup>ト</sup>畢<sup>ラ</sup>  
 ひ。なり。そ。身。由。坊。善。院。言。ひ。を。い。出。仲。和。尚。に  
 被<sup>レ</sup>作。付。子。り。り。傷。之。善。也。一。奏。行。く。一。本。多。教  
 作<sup>サ</sup>善<sup>セ</sup>と。く。り。り。に。及。ま。し。と。ま。後。又。九。列。子。却<sup>ラ</sup>り。世  
 治。ひ。た。り。

